

## 序文

この成果報告書は、文部科学省の支援を受けて、平成19～23年度に実施されたグローバルCOEプログラム「乾燥地科学拠点の世界展開」（拠点リーダー：恒川篤史）の成果をとりまとめたものである。

グローバルCOEプログラムとは、その前身である21世紀COEプログラムの後継的な事業であり、「我が国の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、国際的に卓越した研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、もって、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的とするもの」である。

鳥取大学からは、21世紀COEプログラムには、「乾燥地科学拠点」（平成14～18年度、拠点リーダー：稲永忍）および「染色体工学技術開発の拠点形成」（平成16～20年度、拠点リーダー：押村光雄）の2拠点が採択され、さらにグローバルCOEプログラムには、この「乾燥地科学拠点の世界展開」に加えて、「持続性社会構築に向けた菌類きのこ資源活用」（平成20～24年度、拠点リーダー：前川二郎）の2拠点が採択された。鳥取大学は、地方大学にあってこのように複数の拠点が採択された数少ない大学のひとつであり、鳥取大学の研究面での個性を引き出すことに一役買ったのではないかと考えている。

本事業の実施にあたっては、博士課程として連合農学研究科国際乾燥地科学専攻および医学系研究科医学専攻が、また研究面では乾燥地研究センター、農学部、医学部、工学部、地域学部が参加し、鳥取大学の総力を結集して、事業の推進に取り組んできたと言っても過言ではあるまい。また連携先機関として、米国・ネバダ州・リノに位置する砂漠研究所（Desert Research Institute: DRI）およびシリアのアレッポに位置する国際乾燥地農業研究センター（International Center for Agricultural Research in the Dry Areas: ICARDA）の協力を得た。

鳥取大学では、能勢隆之学長（当時）をはじめ、岩崎正美研究・国際交流担当理事、本名俊正教育担当理事、萩原総務担当理事、研究・国際協力部、乾燥地研究センター、連合農学研究科、農学部、医学部、工学部、地域学部の各教職員の方々に甚大なるご支援を賜りました。ここに厚く御礼を申し上げます。また事業推進担当者をはじめ本事業に協力をいただいた多くの教員、学生さんにこの場を借りて感謝を申し上げます。とくに事業の実施・運営・経理などの実務面を支えてくださった乾燥地研究センターの歴代事務長、渡辺多紀夫氏、北尾富行氏、西尾瀧雄氏、会計担当の土井玄彦氏、小河清史氏、担当職員の大塚優子さん、椿陽子さんの働きがなければ本事業の円滑な実施はあり得ませんでした。深く感謝しています。

本事業の成果を継承し、鳥取大学の乾燥地科学拠点をさらに発展させるため、今後とも尽力して参りますので、引き続きご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成25年7月  
事業推進担当者を代表して  
拠点リーダー 恒川篤史